

令和 8 年度 牧之原市総合教育会議

日時 令和 8 年 8 月 20 日（木）

午後 1 時 30 分～午後 4 時

会場 牧之原市役所 相良庁舎 4 階大会議室

1 開 会

2 市長挨拶

3 協議事項

- ・総合計画後期基本計画における重点戦略「まちの未来に向けた新たな教育・人づくり」、重点プロジェクト「9 年間を通した教育環境の充実」、起郷家教育について
- 【資料 1】

4 報告事項

- ・牧之原市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について
- 【資料 2】

5 連絡事項等

6 閉 会

<配布資料>

【資料 1】 総合計画後期基本計画における重点戦略「まちの未来に向けた新たな教育・人づくり」、重点プロジェクト「9 年間を通した教育環境の充実」、起郷家教育について

【資料 2】 牧之原市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について

総合計画後期基本計画における重点戦略

「まちの未来に向けた新たな教育・人づくり」、
重点プロジェクト「9年間を通じた教育環境の
充実」、**起郷家教育**について

令和8年8月20日(木)

令和8年度 総合教育会議

第3次牧之原市総合計画(R5～12)

前期基本計画(R5～8)

重点戦略プロジェクト5

次代を切り拓く力を育む新たな学校づくり

- ①義務教育学校の設置
- ②地域と共にある学校
- ③学校再編の推進
- ④学校跡地の活用

後期基本計画(案)(R9～12)

重点戦略プロジェクト5

まちの未来に向けた
新たな教育・人づくり

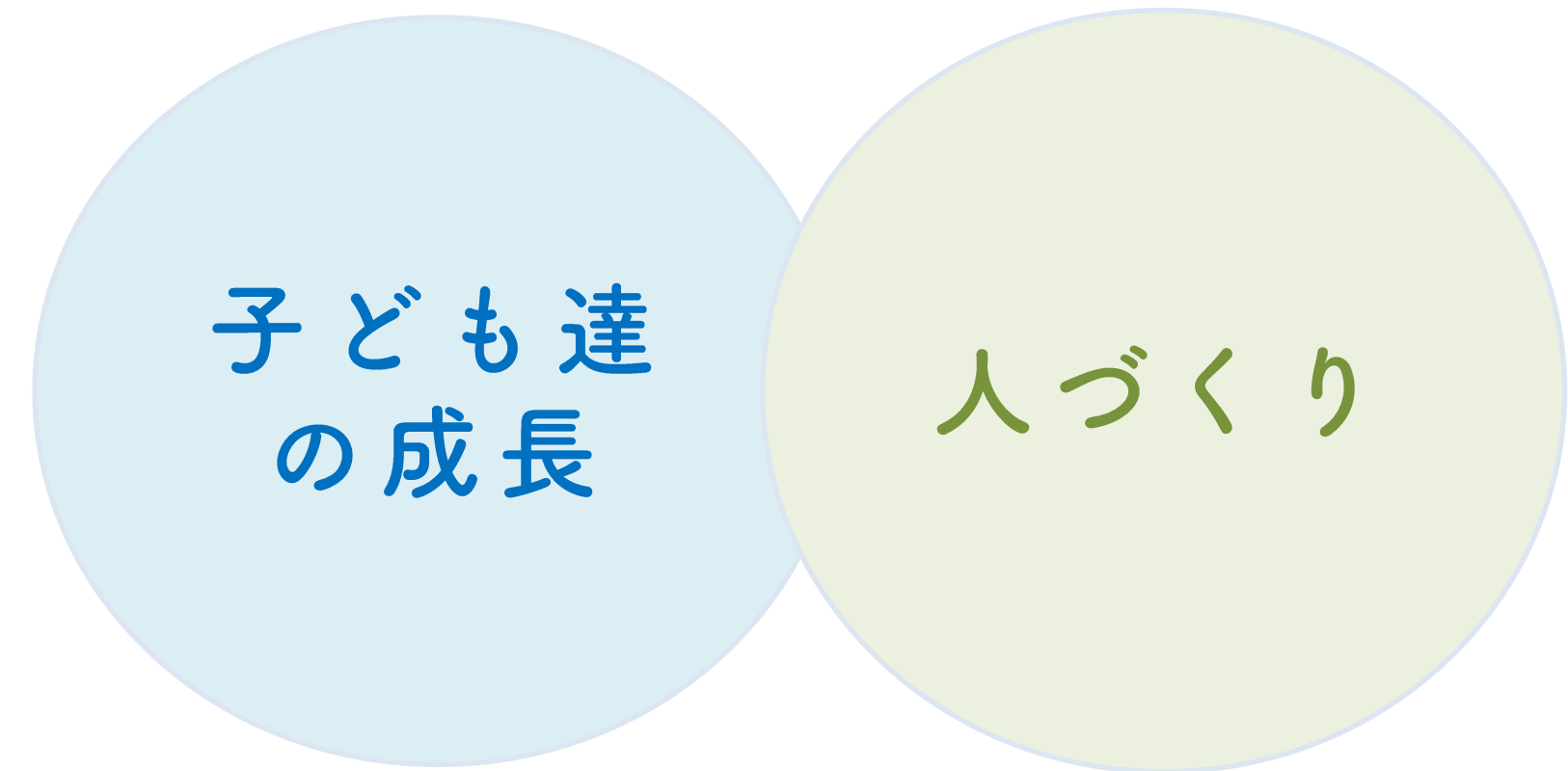
- ①9年間を通じた教育環境の充実
- ②義務教育学校施設の整備
- ③地域経営を担う人づくり

学校づくりから、人づくりへ

後期基本計画

- ・ 生成AIの活用
- ・ 英語学習
- ・ 起郷家教育

・ コミュニティ ・ スクール 等々



H31 望ましい教育環境のあり方方針



キャリア教育を軸にした
小中一貫教育の推進

起郷家とは

郷に学び 将来を見通し

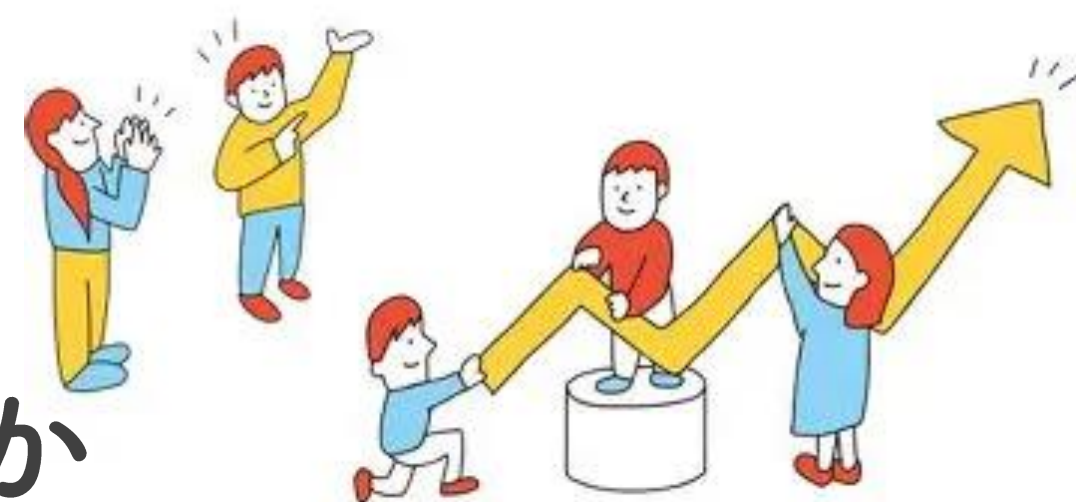
自ら行動を起こす子

市オリジナル

起郷家教育とは

牧之原市版 **キャリア教育**

どのように生きるか
どのように人と関わるか
どのように社会に参画するか



人づくりそのもの！

起郷家（キャリア）教育で育てたい力

創造力



コミュニケーション



課題解決力



未来をたくましく生きる力

どのように育てるか

創造力



コミュニケーション



課題解決力



教科でも 行事でも 生活でも

例えば

創造力



国語で物語の続きを
考える



運動会の応援方法を
企画する



委員会活動で学校をより
よくする取組を考える

例えば

コミュニケーション



グループ学習で考え
を伝えあう

自然教室で仲間と協
力して活動する

毎朝、友達や先生、地
域の人とあいさつする



資質・能力を意識し、育む場面を設定する

～教員の願い～

児童生徒にどんな

資質・能力をつけたいか



教師によって少しずつ異なる

育みたい資質・能力

起郷家教育で育む資質能力

起郷家教育で育む資質・能力

2025/2/10

基礎的・汎用的能力の要素		小学校			中学校
		低学年	中学年	高学年	
活用 力	情報の理解・選択・処理 必要な情報を選択・活用し、自 己の生き方を考える	知りたいことを知るための方法を考える。	わからないことをいろいろな方法で調べ たり質問したりする。	課題解決に必要な情報を、適切な手段 で取捨選択する。	課題の解決に必要な情報を収集し、他 者と共有する。
	将来設計 様々な選択肢について比較検討し、自 らにふさわしい選択・決定を行う	将来のあこがれを持つ。	将来の夢やあこがれを持つ。	将来の夢や希望を持ち、実現を目指して 努力する。	自分の特性・興味・関心から将来を考える。 夢や希望を実現する上での課題を見つけ、 課題解決のプロセスをみいだす。
創り 出す 力	計画立案 課題の解決に向けたプロセス を明らかにし準備をする	決められた時間やきまりを守る。	作業の手順が分かる計画を立てる。	目標に対し、見通しを持つ。	明確な目標を達成するための計画を立て る。
	主体性 物事に進んで取り組む	自分がやりたいことを言える。	自分がやりたいことに取り組む。	自分がやりたいことに、積極的に取り組 む。	自分の思いや考えを実現しようと行動す る。
課題 発見 ・解 決 力	課題発見 現状を分析し目的や課題を明 らかにする	やりたいことを見つける。	興味のあることの中から課題を見つけ る。	生活や学習上の課題を見つける。	体験や知識を生かして課題を見つける。
	レジリエンス 困難な状況でもしなやかに対 応する	困っていることを周りの人に伝える。	失敗したときに気持ちの切り替えをする。	悩みや葛藤を周りの人に相談する。	他者のアドバイスを、課題を乗り越えるた めの力として生かす。
多 様 性 を 受 容 す る 力	実行力 課題解決に取り組む	自分のことは自分で行う。	自分に与えられた役割をやり通す。	課題を自分の力で解決しようとし、集団 の中の自分の役割に責任を果たす。	他者と対話・協働し、試行錯誤しながら、 課題を解決する。
	他者理解 他者の多様な個性を理解し、互 いに認め合う	友達の良さに気付く。 お世話になった人に感謝する。	友達の良いところを認め、励まし合う。 自分の生活を支えている人に気付き、感 謝する。	自分と異なる立場や考え方を理解する。	多様な文化や考えを理解する。
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 力	多様性の理解 職業や勤労に対する広範な見 方・考え方を持つ	身近で働く人の様子を見て、興味を持つ。	いろいろな職業があることがわかる。	身近な産業、職業の様子がわかる。	人々と関わり、多様な生き方（働き方、職 業、進路）があることに気付く。
	チームビルディング 他者と協調・協働して行動できる	友達と仲良く遊んだり、活動したりする。	相手と協力して物事に取り組む。	誰とでも協力して活動し、役割を果たそう	みんなが特性を生かせるように意識して 行動する。
基 礎 的 ・ 基 本 的 な 力	コミュニケーション力 多様な集団・組織の中で、豊か な人間関係を築く	自分の考えをみんなの前で話す。 「ありがとう」「ごめんさい」を言う。	自分の考えや意見をわかりやすく伝え る。 相手の伝えたいことを考えながら聴く。	自分の考えを相手意識を持って伝える。 思いやりの気持ちを持ち行動する。	他者とのかわりを大切にし、お互いの 個性を尊重する。
	自己理解 自己理解を深め、自分らしい生 き方や成功を追求する	あいさつや返事をする。	自分からあいさつや返事をする。	相手と場に応じた言葉がけをする。	相手と場に応じた言葉がけや行動を考 えて、他者に働きかける。
基 礎 的 ・ 基 本 的 な 力	判断力 自らにふさわしい選択・決定を 行う	自分の好きなことを言える。	自分の良いところを見つける。	自分の特性に気付き、自分らしさを発揮 する。	自分の特性を集団で役立てる。 体験活動を通して、自尊感情を高める。
	学習・活動力 学ぶこと・働くことの意義や役割の理解 学校で学ぶことと社会・職業生 活との関連を理解する	生活する上で、してはいけないことがわ かる。	生活する上でのルールやマナーを守る。	思いどおりにいかないときに、周りの状況 や相手の気持ちを考えて行動する。	自分と周りの人や物の関係性を考え、行 動する。
基 礎 的 ・ 基 本 的 な 力	学習・活動力 学ぶこと・働くことの意義や役割の理解 学校で学ぶことと社会・職業生 活との関連を理解する	係や当番活動に取り組む。	係や当番活動に積極的に関わり、働くこ との喜びがわかる。	学んだことと生活や職業との関連を考え る。	学んだことと社会生活を結びつけ、自分 の生活に生かす。

いま じぶん ちから つか
今、自分はどんな力を使っているかな？

活用 力		
情報を集め、使う力		将来につなげる力
☐ わからないことを色々な方法で調べる。		☐ 将来の夢やあこがれをもつ
☐ わからないことを質問する。		☐ 夢や希望を実現するための方法を考える。
☐ 必要な情報を選ぶ。		☐ 夢や希望の実現を目指して努力する。
創り出す力		
計画を立てる力		自分から！の力
☐ 決められた時間やきまりを守る。		☐ 自分がやりたいことを言える。
☐ やることが分かる計画を立てる。		☐ 自分がやりたいことに取り組む。
☐ 目標に対し、何をするかの見通しをもつ。		☐ 積極的に取り組む。
課題発見・解決力		
課題を見つける力	前向きに取り組む力	やりとげる力
		
※課題＝解決したい問題、やるべきこと		
☐ やりたいことを見つける。	☐ 困っていることを周りの人に伝える。	☐ 自分のことは自分で行う。
☐ 興味のあることの中から課題を見つける。	☐ 失敗した時に気持ちの切り替えをする。	☐ 自分の役割に責任を持ち、やり通す。
☐ 生活や学習上の課題を見つける。	☐ 悩みや迷っていることを周りの人に相談する。	☐ 自分の力で解決しようとする。
多様性を受容する力		
周りの人をわかる力	社会のことを知る力	みんなでつくりあげる力
		
☐ 友達の良さを認め、励まし合う。	☐ 身近で働く人の様子を見て、興味をもつ。	☐ 友達と仲良く遊んだり、活動したりする。
☐ 自分の生活を支えている人に気付き、感謝する。	☐ いろいろな仕事を知らうとしている。	☐ 誰とでも協力して物事に取り組む。

起郷家教育

3つのプログラムを開発

小5
地域の再発見
(旧アースランチ)



小6・中1
命と防災



中2・中3
仕事と価値創造



総合的な学習の時間 「きごうか」

起郷家教育の構想

新しい学校の開校に向けての起郷家教育ロードマップ 2026.1.30

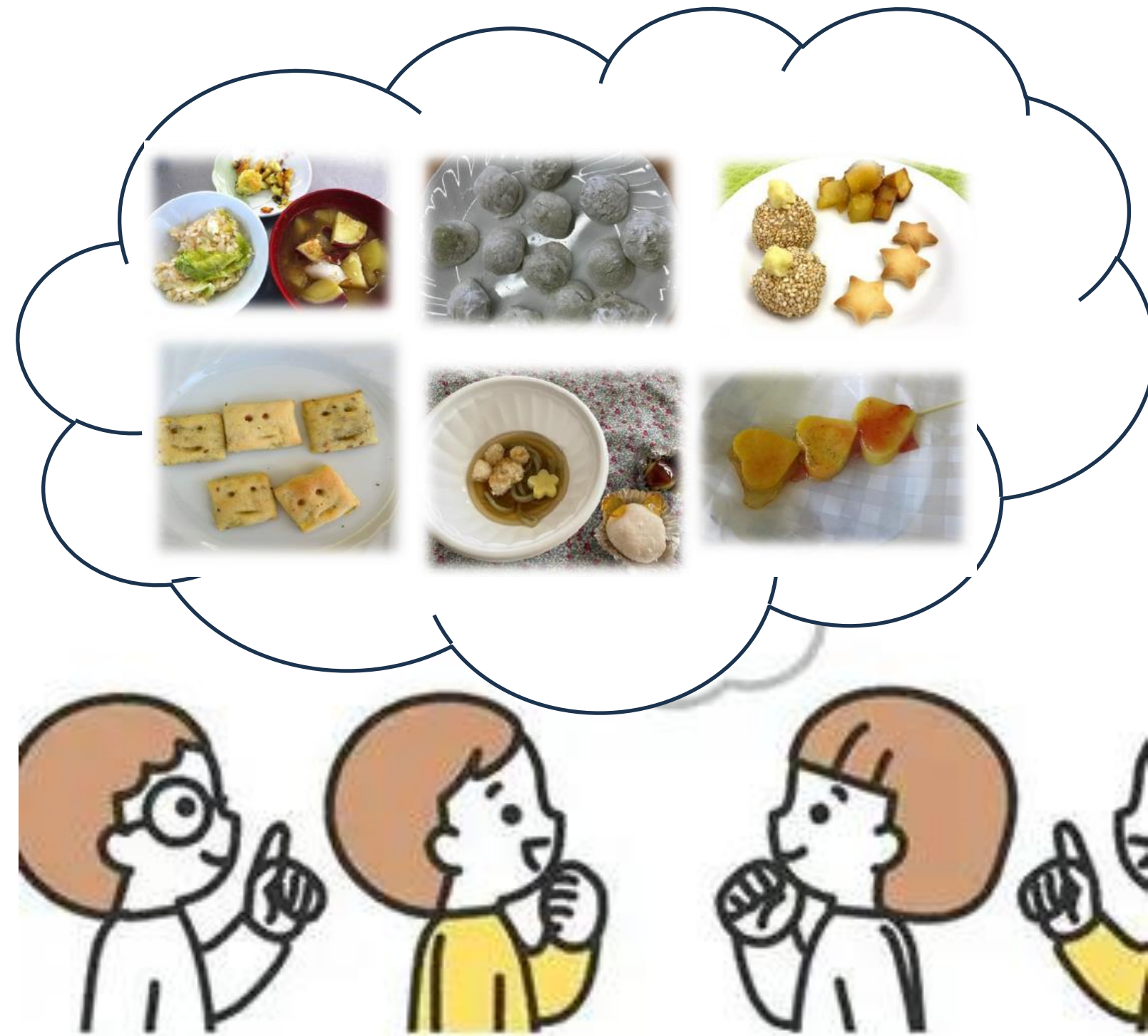
	2019 R1	2020 R2	2021 R3	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025 R7	2026 R8	2027 R9	2028 R10	2029 R11	2030 R12
組織												
教員の研修体制	教務主任対象 キャリア教育講演											
地域の再発見												
命と防災												
仕事と価値創造												
私の生き方と 牧之原												
世界の変化と 私												

起郷家教育
資質・能力表
作成

- ・ 数年にわたって計画的に
- ・ 静岡大学と連携
- ・ 市全体の教育、体系化

他市にはない！誇れる教育資産

地域の再発見



身近なものを見直す

色々なアイデアを出す

こんなもの
を作ってみ
たい！
創造力

地域の再発見



試行錯誤

上手くいかない経験も

なんでうまく
いかないの
かな？
課題発見力

自分達で考えて
解決しよう！
やりとげる力

地域の再発見



社会のこ
とを知る
力

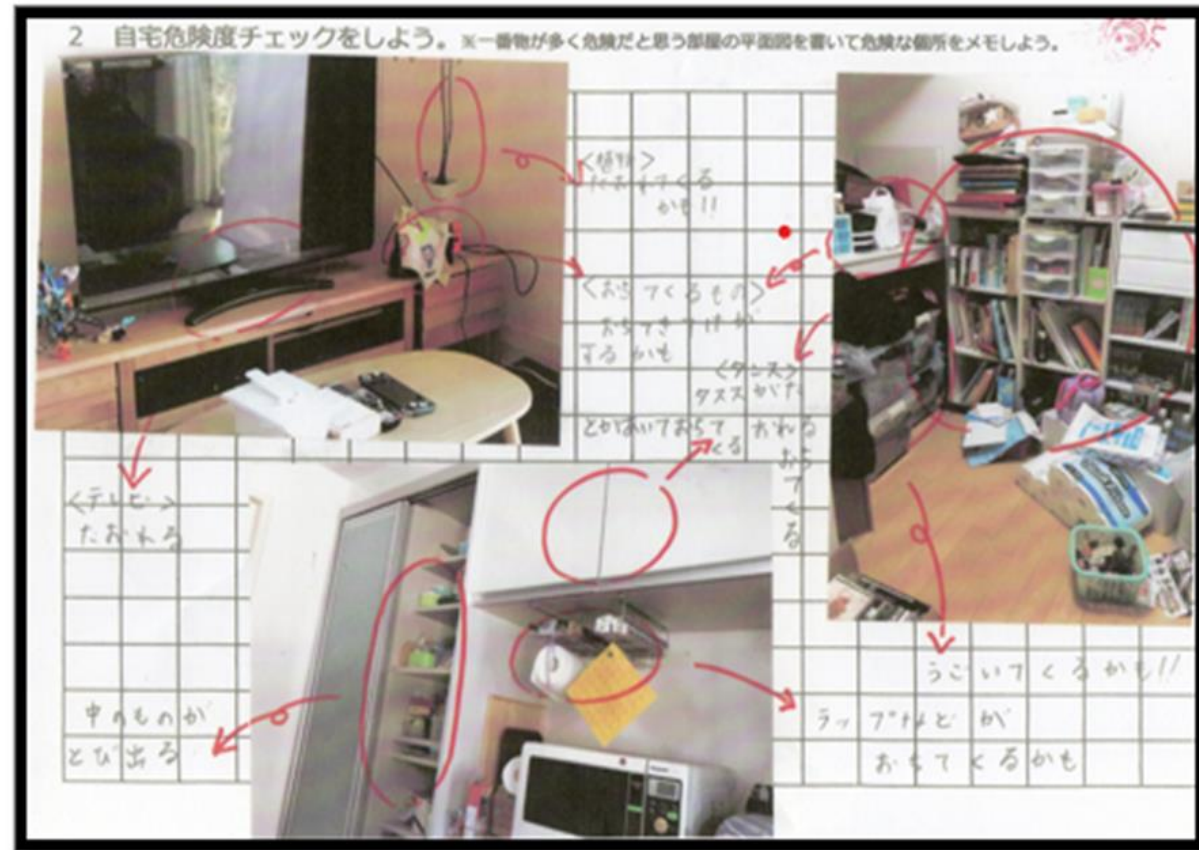


みんな
で作り上
げる力



人とのつながりや支え合いを感じる

命と防災



自分で考え、判断する学び

考える力
決める力

命と防災



基礎的な
知識・技能



煙体験



仮設トイレ



救急法



非常食づくり

命と防災



地域社会との つながりがある学び

人と協力して
よりよい方法を
みんなで作り上
げる力

地域や社会
に関わる
周りの人を
わかる力

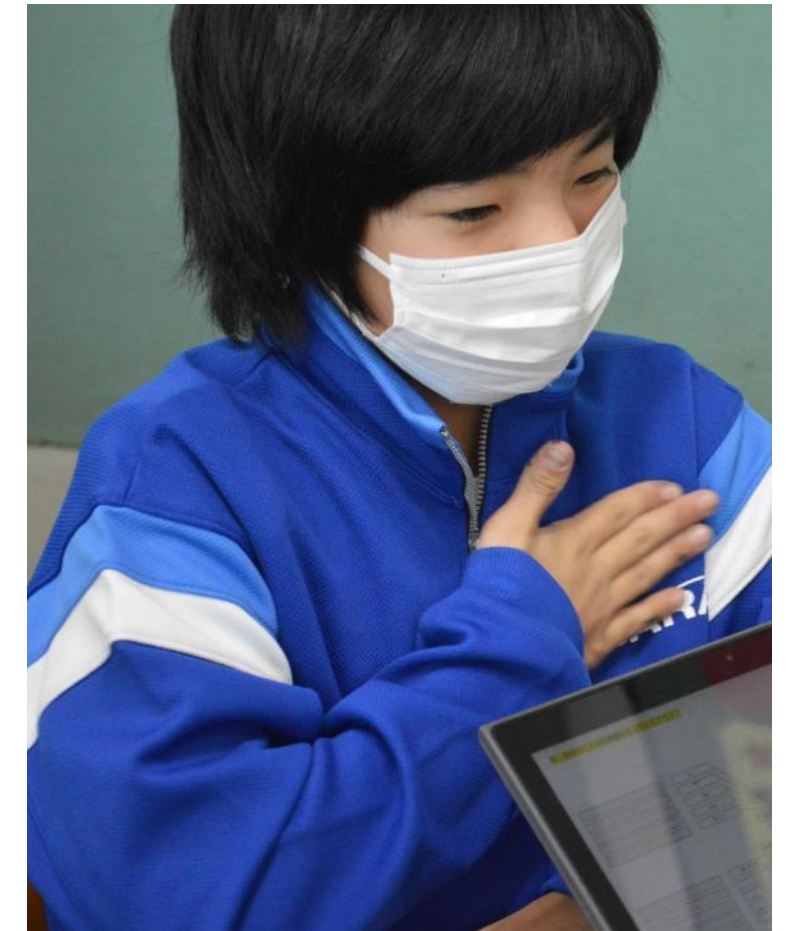
仕事と価値創造



職業講話
価値観を考える

将来につな
げる力

仕事と価値創造



実現したい企画を考える
チームで企画をつくる

計画を立てる力

情報を集め、使う力

仕事と価値創造



企画について相談する
考えた企画を発信する

人と
関わる力

他の人に
働きかけ
る力

起郷家プログラムの目的

- ・料理を作る
- ・防災意識を高める
- ・職業意識の向上

ではなく…

起郷家プログラムの目的

こんなもの
を作ってみ
たい！
創造力

なんでうま
くいかない
のかな？
課題発見力

自分達で考
えて解決し
よう！
やりとげる
力

地域や社会
に関わる
周りの人を
わかる力

学ぶ過程で、資質・能力を高めること

特色ある起郷家教育

市全体で実践！ 学校の境なく、小中の境なく

今、自分はどんな力を使っているかな？

活用力		
情報を集め、使う力 わからないことを色々な方法で調べる。 わからないことを質問する。 必要な情報を選ぶ。	将来につなげる力 将来の夢やあこがれをもつ。 夢や希望を実現するための方法を考える。 夢や希望の実現を目指して努力する。	
創り出す力		
計画を立てる力 決められた時間やきまりを守る。 やること分かる計画を立てる。 目標に対し、何をやるかを見通しをもつ。	自分から！の力 自分がやりたいことを言う。 自分がやりたいことに取り組む。 積極的に取り組む。	
課題を見つける力	課題発見・解決力	やりとげる力
※課題＝解決したい問題。やるべきこと やりたいことを見つける。 興味のあることから課題を見つける。 生活や学習上の課題を見つける。	前向きに取り組む力 固まっていることを周りの人に伝える。 失敗した時に気持ちの切り替えをする。 悩みや迷っていることを周りの人に相談する。	やりとげる力 自分のことは自分で行う。 自分の役割に責任を持ち、やり通す。 自分の力で解決しようとする。
周りの人をわかる力	社会のことを知る力	みんなでつくりあげる力
友達の良いところを認め、励まし合う。 自分の生活を支えている人に気づき、感謝する。	多様性を受容する力 身近で働く人の子供を見て、興味をもつ。 いろいろな仕事を知ろうとしている。	みんなでつくりあげる力 友達と仲良く遊んだり、活動したりする。 誰とでも協力して物事に取り組む。



こんなものを作ってみたい！
創造力

なんでうまくいかないのかな？
課題発見力

自分達で考えて解決しよう！
やりとげる力

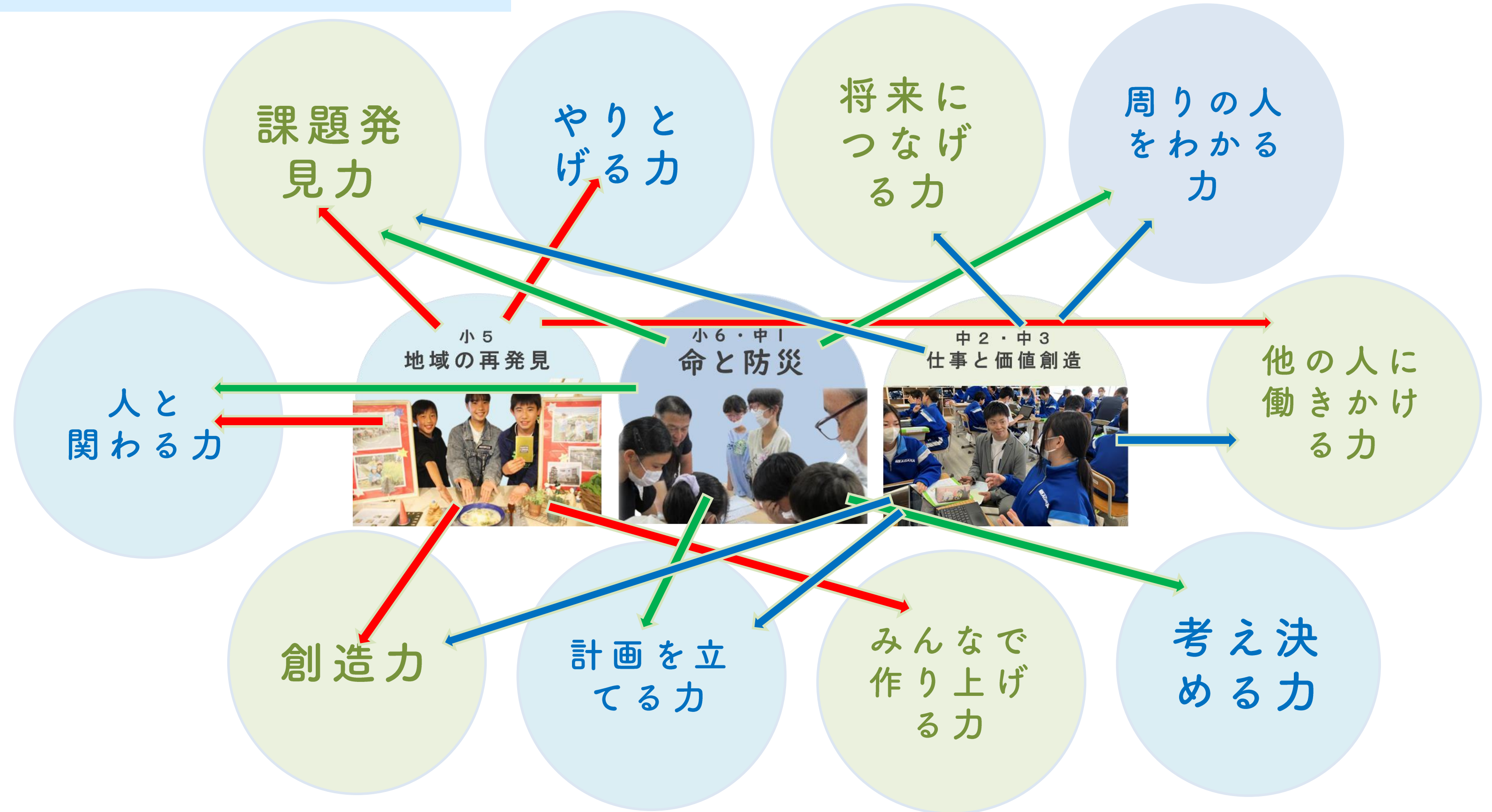
地域や社会に関わる
周りの人をわかる力

特色ある教育

人づくり！



力を授ける教育



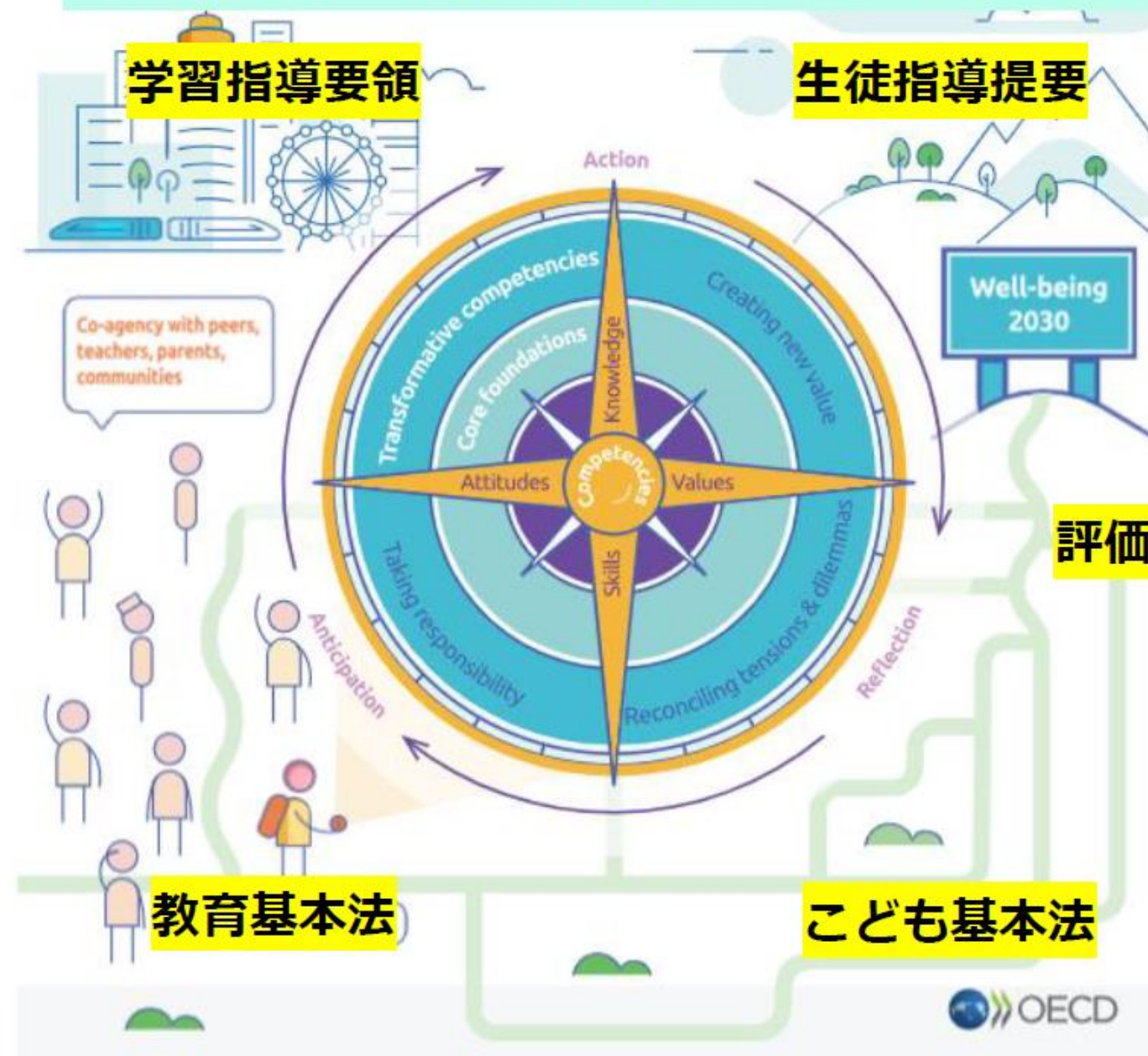
世界の「教育改革」ラーニング・コンパス



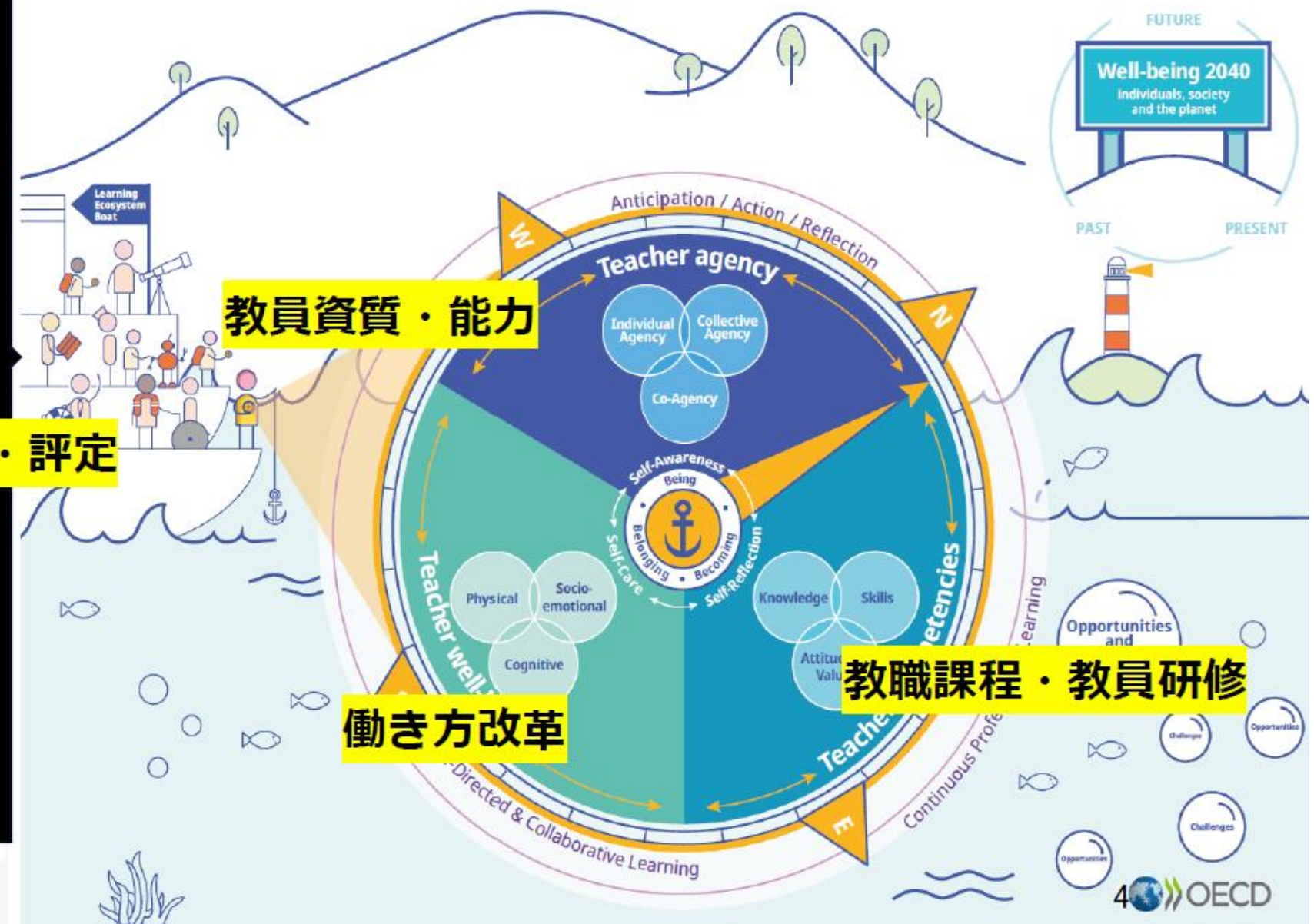
OECD諸国によるティーチングコンパス議論の背景：

- ・ カリキュラムを「理念」から「現実」にする未来の教師像
- ・ カリキュラム改定含め制度再設計—部分最適から全体最適へ

ラーニング・コンパス (2015-19) 改定中



ティーチング・コンパス(2025)



新学習指導要領の方向性との整合性

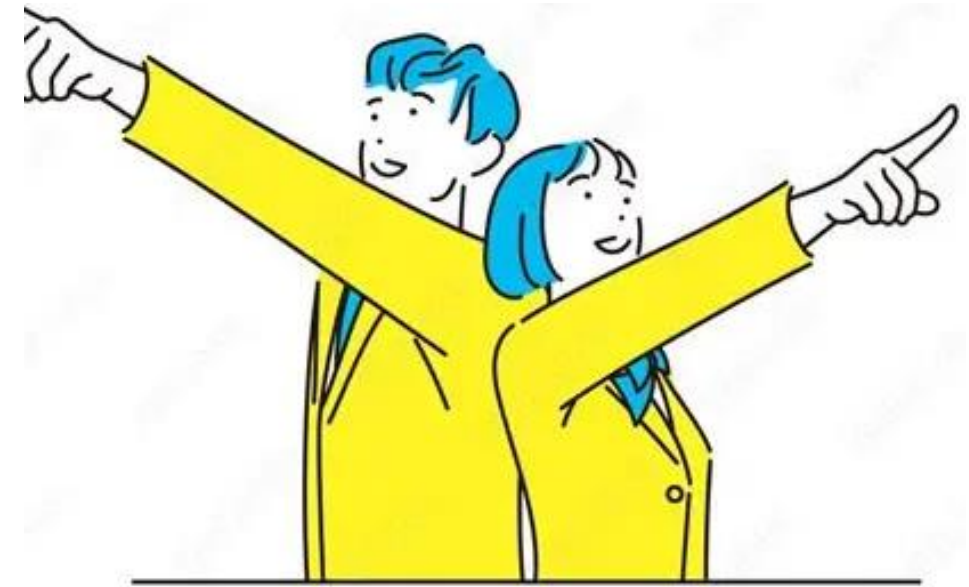
新学習指導要領の3つの柱

先取り！

①資質・能力の育成

②主体的・対話的で深い学び

③地域と連携した教育（コミュニティ・スクール）



生成AIに聞いてみました！

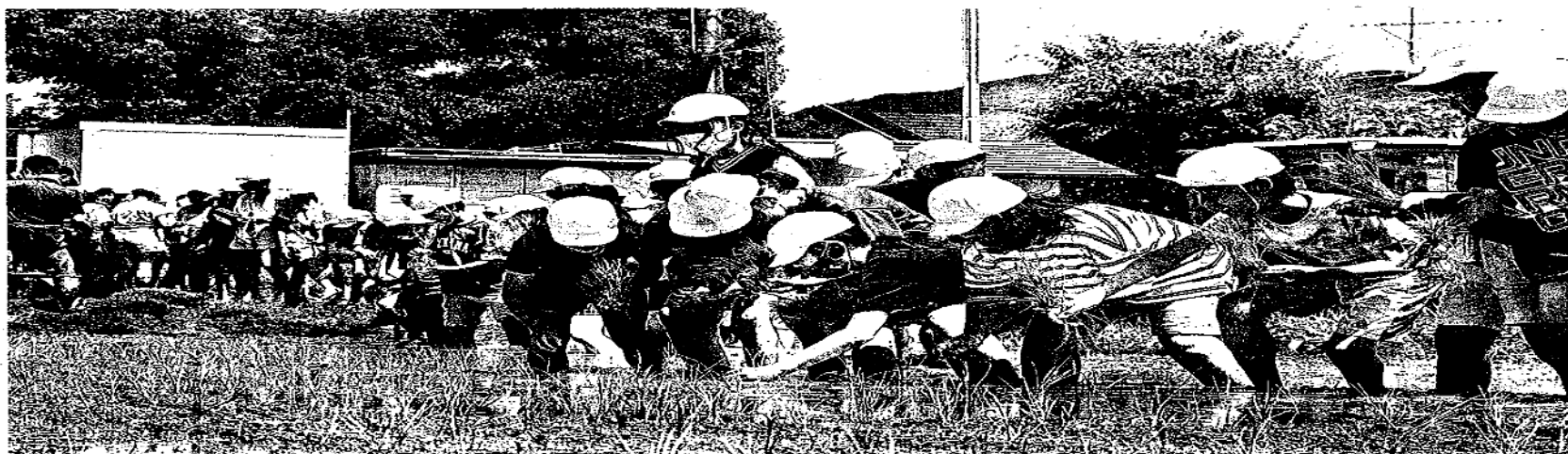
Q：起郷家教育を評価してみても

生成AIに聞いてみました！

Q：起郷家教育を評価してみても

- ①キャリア教育を「9年間の体系」として市全体で構築している自治体は極めて少ない
- ②地域資源を「学習課題化」し、全校で体系的に活用するモデルは全国的にも希少
- ③学校再編と連動した教育改革として全国的に先進
- ④大学との共同研究による「科学的な教育改革」は全国でも限られる

水田に苗を植える児童たち―静岡市葵区竜南



手作業の喜び 命考える 葵区・千代田小5年生

静岡市葵区の千代田小5年生約130人が8日、同区竜南の水田で田植えに挑戦した。晴天の下、泥まみれになりながら体験を楽しんだ。

命をテーマにした総合学習の一環で、JFA静岡市東部青壮年部食育事業班が協力した。水田に植えたのは5月に校内でもみまきをして21目を迎えたもち米「キンタモチ」の苗。児童は田植え機の動きを見て苗を植える深さや間隔を学び、手作業で丁寧に苗を植えた。

星野恵生さん(11)は「手作業は大変だったけれど楽しかった」と笑顔を見せた。

泥んこで田植え「苗大きく」

同事業班の青木嘉孝さん(66)は「農家にならなくても、農産物を通して理解できる消費者になってほしい」と話した。

(社会部・青土菜)

農業への理解 体験通し深く

牧之原・川崎小5年生

牧之原市の川崎小5年生は5日、同市静波の水田で田植えを体験し、農業への理解を深めた。

児童約60人はJFAハイチンの職員から植える深さや間隔などの説明を受け、「コシヒカリ」の苗を手で植えていった。児童らは「大変だ



田植えを体験する児童たち―牧之原市静波

った「大きく育ってくれたらうれしい」と話した。

子どもたちに主体的な学びを促す市の「起郷家教育」の一環。今後、収穫したコメを米粉に加工し、市内の飲食店と協力して、パンやアイスを作る予定。

坂部小児童が考案「ニコニコ定食」 19日から

道の駅 そらっと牧之原で味わって



考案した定食を紹介する児童たち
「牧之原市の道の駅「そらっと牧之原」

牧之原市の坂部小児童が考案したメニュー「ニコニコ坂部っこ定食」が19日から同市の道の駅「そらっと牧之原」で提供される。児童が「地元の食の魅力を知ってほしい」という思いを込め、県内産の野菜をふんだんに使用した。

県産野菜たっぷり 「自然」や「平和」
メッセージ込め

炊き込みご飯、みそ汁、唐揚げなどで構成。トマト、レタス、サツマイモなど、道の駅に普段から出荷している県内農家の作物を使った。炊き込みご飯は彩り豊かな4種類のセットで、しよゆ味の茶色は「自然」、バター味の白は「平和」などと児童がメッセージを込めた。5年の金原澤那さんは「道の駅には全国から多くのお客さんが来るので、地元野菜のおいしさを味わってほしい」と話した。

子どもたちに主体的な学びを促す市の「起郷家教育」の一環。児童は1年を通して米作りや野菜の収穫体験などを行い、農家と交流を重ねてきた。市内9校がそれぞれ地元作物を使った料理を開発した。

(榛原支局・沢口翔斗)

いのちを守る

防災しずおか

防災教育子どもが主体

訓練では、上級生が下級生の手を引いて逃げたり、普段よりも迅速に上の階を目指したりと、児童の意識に変化が見られたという。

起郷家教育の防災に関するプログラムは、本年度から市内全小中学校で本格的に始まった。総合学習の時間を活用し、小学6年・中学1年までの2年間で計40時間を充てる。

牧之原市 小中校で独自展開

牧之原市内の小中学校で2025年度から、総合学習の時間を活用した市独自の防災教育が行われている。小学6年から中学1年までの連続した学習を通して、児童生徒が地域防災に能動的に関わることを目指している。

地域合同訓練 児童が提案

園児の誘導、避難所運営「共助」理解

「落ち着いて3階に移動して2校舎は土足のままで大丈夫だよ」。昨年11月、同市の川崎小で行われた防災訓練で、6年生が校内に避難してきた園児たちに声をかけた。階段で転ばないよう園児の体に手を添え、上の階に向かった。市が独自に展開する「起郷家教育」の一環として、隣接する静波保育園との合同訓練を初企画した。災害時の避難場所に指定されている同校で、避難する教室の場所や経路を園児に伝えた。地域住民も参加し、校内にある備蓄を確認。児童や教員用以外の食料品が不足している現状を知り、各自が防災バッグを持参する重要性を認識した。

市が授業内容について一定の方向性を示す一方、具体的な取り組みは各校の裁量に委ねられている。菅山小では体育館に段ボールのパーティションを設置。家族を誘導し、避難所運営を体験した。牧之原中では日本赤十字社東支部の協力を得て炊き出しを行い、ポリ袋を使ったカレーづくりに挑戦した。児童生徒による実践が重視され、多様な取り組みが広がっている。

訓練は児童の提案がきっかけ。起郷家教育の授業で、校内の訓練の在り方を議論した際、同年7月のロシア・カムチャツカ半島付近で発生した地震に伴う津波警報発表時に地域住民が校舎に避難してきたことが話題に挙がった。児童から「たくさんの方が来ても混乱しないように、住民と合同の訓練がしたい」との意見が出た。

市が重視するのは、2年間の授業に「ストーリー性」を持たせること。6年生の学習では、家庭内の防災の見直しや通学路の危険箇所の点検といった「自助」に重点が置かれる。中学1年生になると、避難所の運営ゲームや救命講座などを通して、周囲で助け合う「共助」へと理解を広げてもらう。

6年学年主任の飯田翔太教諭(35)は「訓練は受け身になりがちだが今回は児童が主体。実際の災害時に近いような緊張感があった」と手応えを示す。1月に行った抜き打

市学校教育課の北西泉美さん(48)は「牧之原は津波など災害リスクを抱える地域。生徒には自身の命や地元防災のために主体的に行動する力を伸ばしてほしい」と期待する。(榛原支局・沢口翔斗)



園児に寄り添って上層階への避難を訓練する児童ら
＝昨年11月、牧之原市の川崎小

起郷家教育 牧之原市が2030年度以降に二つの小中一貫校を新設することを掲げて開発した教育カリキュラム。「地域の再発見」「命と防災」「仕事と価値創造」の3テーマを小中9年間の総合学習の授業で段階的に学ぶ。

牧之原市の勝間田小の児童は2024年度、起郷家教育の一環で、地域の防災情報を発信する日めくりカレンダーを製作した。地元企業から協賛金を募り、勝間田地区の住民に全戸配布した。学校の枠を超えて、地域を巻き込んだ取り組みになった。

「日常的に目にする物を使って、住民の防災意識を高めたい」という狙いで製作した。31日分の各ページに児童が文字やイラストで防災情報を掲載。夏の避難で必要な持ち出し品や家具の固定方法、地区内の指定避難所などをまとめた。毎月繰り返し使用できる。

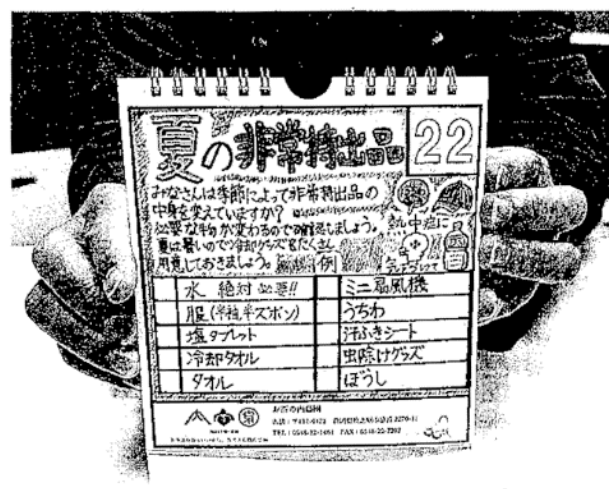
勝間田小 備え意識 日常的に

制作に当たって、児童は地区内を巡って危険箇所を調べたり、各家庭で食料品の備蓄状況を確認したりした。教員や市職員、自治会役員による会合にも参加し、住民が知りたい防災情報を聞き取った。

ページの下部には広告枠を設け、企業・団体から協賛金を募った。約40団体の協力があり、約1000部を印刷して地区内の家庭に全戸配布した。

同校の原田正裕校長(58)＝当時＝は「校内で完結する学習にとどまらず、児童が地域に出て具体的な防災行動を起こすことができた」と振り返った。

企業協賛募りカレンダーづくり地区全戸に配布



勝間田小の児童が製作した防災情報を伝えるカレンダー

牧之原茶シャンプー開発へ



商品の販売方法について意見交換する生徒ら
＝牧之原市の牧之原中（写真の一部を加工しています）

中学生 効能学ぶ PR方法 アイデア次々

牧之原市の牧之原中2年生が総合学習の授業を活用し、静岡牧之原茶を使った美容用品の開発に携わっている。商品開発を通して、特産の茶の効能について理解を深めている。

同市で美容室を運営する牧之原美容と地元の高柳製茶が授業に協力し、シャンプーや頭皮用の美容液の開発を目指している。25日の授業では企業の代表者が茶に含まれるカテキンなどの成分を解説し、期待できる美容効果を紹介。生徒はグループに分かれて、PRや販売方法についてアイデアを出し合った。「市内出身のスポーツ選手に使ってもらおう」「サービスイリアに置いてもらい販売する」といった意見が出た。

生徒が地域住民と関わりながら主体的に学ぶ同市の「起郷家教育」の一環。今後、生徒はパッケージの考案などに携わり、2027年の商品化を目指す。

（榛原支局・沢口翔斗）

地域愛



牧之原市で育ち、未来へはばたく



起郷家教育で育む資質・能力(第3次案)

2026/7/21

基礎的・汎用的能力の要素		小学校			中学校
		低学年	中学年	高学年	
活用力	情報の理解・選択・処理 必要な情報を選択・活用し,自己の生き方を考える	知りたいことを知るための方法を考える。	わからないことをいろいろな方法で調べたり質問したりする。	課題解決に必要な情報を,適切な手段で取捨選択する。	課題の解決に必要な情報を収集し,他者と共有する。
	将来設計 様々な選択肢について比較検討し,自らにふさわしい選択・決定を行う	将来のあこがれを持つ。	将来の夢やあこがれを持つ。	将来の夢や希望を持ち,実現を目指して努力する。	自分の特性・興味・関心から将来を考える。夢や希望を実現する上での課題を見つけ,課題解決のプロセスをみいだす。
創り出す力	計画立案 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備をする	決められた時間やきまりを守る。	作業の手順が分かる計画を立てる。	目標に対し,見通しを持つ。	明確な目標を達成するための計画を立てる。
	主体性 物事に進んで取り組む	自分がやりたいことを言える。	自分がやりたいことに取り組む。	自分がやりたいことに,積極的に取り組む。	自分の思いや考えを実現しようと行動する。
課題発見・解決力	課題発見 現状を分析し目的や課題を明らかにする	やりたいことを見つける。	興味のあることの中から課題を見つける。	生活や学習上の課題を見つける。	体験や知識を生かして課題を見つける。
	レジリエンス 困難な状況でもしなやかに対応する	困っていることを周りの人に伝える。	失敗したときに気持ちの切り替えをする。	悩みや葛藤を周りの人に相談する。	他者のアドバイスを,課題を乗り越えるための力として生かす。
	実行力 課題解決に取り組む	自分のことは自分で行う。	自分に与えられた役割をやり通す。	課題を自分の力で解決しようとし,集団の中の自分の役割に責任を果たす。	他者に対話・協働し,試行錯誤しながら,課題を解決する。
	他者理解 他者の多様な個性を理解し,互いに認め合う	友達の良さに気付く。 お世話になった人に感謝する。	友達の良いところを認め,励まし合う。 自分の生活を支えている人に気付き,感謝する。	自分と異なる立場や考え方を理解する。	多様な文化や考えを理解する。
多様性を受容する力	多様性の理解 職業や勤労に対する広範な見方・考え方を持つ	身近で働く人の様子を見て,興味を持つ。	いろいろな職業があることがわかる。	身近な産業,職業の様子がわかる。	人々と関わり,多様な生き方(働き方,職業,進路)があることに気付く。
	チームビルディング 他者と協調・協働して行動できる	友達と仲良く遊んだり,活動したりする。	相手と協力して物事に取り組む。	誰とでも協力して活動し,役割を果たそうとする。	みんなが特性を生かせるように意識して行動する。
コミュニケーション力・コミュニケーション	コミュニケーション力 多様な集団・組織の中で,豊かな人間関係を築く	自分の考えをみんなの前で話す。 「ありがとう」「ごめんなさい」を言う。	自分の考えや意見をわかりやすく伝える。 相手の伝えたいことを考えながら聴く。	自分の考えを相手意識を持って伝える。 思いやりの気持ちを持ち行動する。	他者とのかかわりを大切にし,お互いの個性を尊重する。
	他者への働きかけ 他人に働きかけ巻き込む	あいさつや返事をする。	自分からあいさつや返事をする。	相手と場に応じた言葉がけをする。	相手と場に応じた言葉がけや行動を考えて,他者に働きかける。
基礎生きる基本	自己理解 自己理解を深め,自分らしい生き方や成功を追求する	自分の好きなことを言える。	自分の良いところを見つける。	自分の特性に気付き,自分らしさを発揮する。	自分の特性を集団で役立てる。 体験活動を通して,自尊感情を高める。
	判断力 自らにふさわしい選択・決定を行う	生活する上で,してはいけないことがわかる。	生活する上でのルールやマナーを守る。	思いどおりにいかないときに,周りの状況や相手の気持ちを考えて行動する。	自分と周りの人や物の関係性を考え,行動する。
知基能・的技	学がこと・働くことの意義や役割の理解 学校で学がことと社会・職業生活との関連を理解する	係や当番活動に取り組む。	係や当番活動に積極的にに関わり,働くことの喜びがわかる。	学んだことと生活や職業との関連を考える。	学んだことと社会生活を結びつけ,自分の生活に生かす。

いま じぶん ちから つか
今、自分はどんな力を使っているかな？

かつようりよく 活用力		
じょうほう あつ つか 情報を集め、使う力		しょうらい 将来につなげる力
☐ わからないことを色々な方法で調べる。		☐ 将来の夢やあこがれをもつ
☐ わからないことを質問する。		☐ 夢や希望を実現するための方法を考える。
☐ 必要な情報を選ぶ。		☐ 夢や希望の実現を目指して努力する。
つく だ 創り出す力		
けいかく た 計画を立てる力		じぶん 自分から！の力
☐ 決められた時間やきまりを守る。		☐ 自分がやりたいことを言える。
☐ やることが分かる計画を立てる。		☐ 自分がやりたいことに取り組む。
☐ 目標に対し、何をするかの見通しをもつ。		☐ 積極的に取り組む。
かだいはいっけん かいけつりよく 課題発見・解決力		
かだい み 課題を見つける力		まえむ とく 前向きに取り組む力
		
※課題＝解決したい問題、やるべきこと		
☐ やりたいことを見つける。		
☐ 興味のあることの中から課題を見つける。		
☐ 生活や学習上の課題を見つける。		
☐ 困っていることを周りの人に伝える。		
☐ 失敗した時に気持ちの切り替えをする。		☐ 自分のことは自分で行く。
☐ 悩みや迷っていることを周りの人に相談する。		
☐ 自分の力で解決しようとする。		
たようせい じゅうよう 多様性を受容する力		
まわ ひと 周りの人をわかる力		じゃかい し 社会のことを知る力
		
☐ 友達の良さを認め、励まし合う。		
☐ 身近で働く人の様子を見て、興味をもつ。		
☐ 自分の生活を支えている人に気付き、感謝する。		
☐ 自分と違う立場や考え方の人のこともわかってもらう。		
☐ いろいろな仕事を知らずして知っている。		
☐ 身近な人の仕事の様子を知ろうとしている。		☐ 友達と仲良く遊んだり、活動したりする。
☐ 誰とでも協力して物事に取り組む。		
☐ 自分の役割を果たそうとする。		
コミュニケーション力		
ひと かか 人と関わる力		ほか ひと はたら 他の人に働きかける力
☐ 「ありがとう」「ごめんなさい」を言う。		
☐ 相手の伝えたいことを考えながら聴く。		
☐ 自分の考えを相手のことを考えながらわかりやすく伝える。		
☐ あいさつや返事をする。		☐ 自分からあいさつや返事をする。
☐ 相手と場に合わせた言葉がけをする。		
☐ 係や当番活動に積極的に取り組む。		
☐ 働くことの喜びがわかる。		
☐ 学ぶことの良さを感ずる。		
☐ 学ぼうとする意欲がある。		
生きる力の基礎基本		
じぶん 自分のことをわかる力		かんが き 考え、決める力
		
☐ 自分の好きなことを言える。		
☐ 自分の良いところを見つける。		
☐ 自分らしさを出す。		☐ 生活する上で、してはいけないことがわかる。
☐ 生活する上でのルールやマナーを守る。		
☐ 周りのことを考えて行動する。		
☐ 係や当番活動に積極的に取り組む。		☐ 働くことの喜びがわかる。
☐ 学ぶことの良さを感ずる。		
☐ 学ぼうとする意欲がある。		

※一人一人が、将来幸せに生きるためにこんな力がたくさん使えるようになるといいな。というものです。(もともとみなさんにある力です。)

牧之原市立学校の教育職員に関する
業務量管理・健康確保措置実施計画

令和8年4月

牧之原市教育委員会

目 次

- 1. 計画の趣旨・現状 1 ページ
- 2. 目標 2 ページ
- 3. 計画の期間 2 ページ
- 4. 実施する業務量管理・健康確保措置の内容 2 ページ
- 5. 関連する取組、今後のフォローアップについて 4 ページ

1. 計画の趣旨、現状

(1) 計画の趣旨

本計画は、教育職員の心身の健康を保持し、誇りとやりがいを持って職務に従事できる環境を整備することで、本市教育の質的な向上を図ることを目的とする。

① 背景と基本方針

現在、学校教育を取り巻く環境は複雑化・多様化しており、教育職員の業務負担の増大が大きな課題となっている。「牧之原市教育振興基本計画」において掲げる「こころざしを持ち 夢ある人づくり」を実現するためには、その担い手である教師自身が心身ともに健康であり、専門性を発揮できる「時間的・精神的なゆとり」を持つことが不可欠である。

② 具体的な狙い

本市では、以下の視点を軸に、組織的な業務改善を推進する。

ア 教育の質の維持向上： 業務の適正化を図ることで、教師が子供一人ひとりと向き合う時間を確保し、本市の目指す「こころざしを持ち 夢ある人づくり」を保障する。

イ 健康管理の徹底： 在校等時間の客観的な把握と上限設定により、長時間勤務を抑制し、メンタルヘルス対策を含めた健康確保措置を講じる。

ウ 学校運営の最適化： 学校・家庭・地域が役割を分担し、地域連携（コミュニティ・スクール）を強化することで、学校のみが抱え込まない体制を構築する。

本計画の実施により、教育職員が心身ともに健康で、情熱を持って子供たちの指導にあたることのできる「持続可能な学校教育体制」を確立する。

(2) 本市の現状

本市では、令和4年3月に、所管に属する学校の教育職員の在校等時間の上限に関する方針として、「牧之原市立学校教育職員の業務量の管理等に関する規則」（以下「規則」という）を定め、教育職員の在校等時間の管理及びその時間の縮減に取り組んできた。こうした取組の結果、本市における教育職員の時間外在校等時間の状況について、令和6年度は以下のとおりであった。

【令和6年度の時間外在校等時間の状況】

	年平均	月45時間を上回る割合	月80時間を上回る割合
小学校	23時間43分	15.6%	0.6%
中学校	48時間32分	52.2%	12.4%

時間外在校等時間が45時間を超える割合が特に中学校で52%と多くなっている。部活動や保護者対応などの業務の負担感が大きくなっており、業務改善を図ることによって、教育職員の業務に、教育の質の向上のために必要な時間的余裕を創出することが必要である。こうしたことを踏まえ、公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に

関する特別措置法第8条に基づき本計画を策定するものである。

2. 目標

(1) 上限の原則

- ① 1ヶ月の時間外在校等時間を45時間以内とする。
- ② 1年間の時間外在校等時間を360時間以内とする。

(2) 中長期目標：国の目標（令和11年度までに月平均30時間程度に削減）を念頭に、一層の時間外在校等時間の縮減に取り組む。

(3) 適正な記録：休憩時間や休日を含め、実際の在校等時間を正確に記録し、虚偽の記録や自宅への持ち帰り業務の増加を防止する。

(4) ワーク・ライフ・バランスや働きがい等に関する目標

- ① 年間の年次有給休暇の平均取得日数を10日以上にする
- ② ストレスチェックにおける高ストレス者の割合を10%まで減少させる
- ③ 各校で実施している学校評価アンケート等において、働きがい等に関する質問項目（例えば、「あなたは普段の仕事にやりがいを感じますか」）への肯定的な回答の割合を90%以上にする

3. 計画の期間

令和8年4月1日から令和12年3月31日までの4年間とする。

ただし、毎年度実施状況を検証し、必要に応じて見直しを行う。

【毎年度取り組む主な内容】

- ・ 時間外在校等時間の把握
- ・ ストレスチェックの実施と検証
- ・ 校務支援システムの活用促進
- ・ 部活動の認定クラブ化の推進（令和10年夏までに構築）
- ・ 「学校経営における職と職務の再編」の取組継続

4. 実施する業務量管理・健康確保措置の内容

(1) 「業務の3分類」を踏まえた業務の見直し

① 学校以外が担うべき業務

ア 登下校時の通学路における日常的な見守り活動等（「3分類」①関係）

- ・ 軒先運動、学校運営協議会などを通じて、保護者・地域住民による通学路の見守り活動を推進する。

イ 放課後から夜間などにおける校外の見回り、児童生徒が補導された時の対応（「3分類」②関係）

- ・ 放課後から夜間における見回りについては、青少年健全育成委員が行っている

見回りに委ねることとし、学校における自主的な見回りは原則行わないこととする。

- ・ 学校警察連絡協議会等において、補導された児童生徒の引取りについては、保護者が第一義的な責任を負うことについて認識を共有する。

ウ 学校徴収金の徴収・管理（公会計化等）（「3分類」③関係）

- ・ 給食費等の学校徴収金について、歳入歳出予算に組み入れる対象範囲や徴収手続き等の精査を進め、学校再編が完了する令和15年度を目途にできる限り前倒しで公会計化を目指す。

② 教師以外が積極的に参画すべき業務

ア 調査・統計等への回答（「3分類」⑥関係）

- ・ 校務支援システムの機能等を活用することによって、市から学校に発出される調査の回答に係る事務負担を軽減する。

イ 部活動（「3分類」⑬関係）

- ・ 令和10年度中に、原則、休日の全ての部活動の地域展開を実現する。平日の部活動については、活動時間等の適正化を図るとともに、部活動指導員の配置拡充等を進める。

③ 教師の業務だが、負担軽減を促進すべき業務

ア 授業準備、学習評価や成績処理（「3分類」⑮⑯関係）

- ・ 校務支援システムの機能や生成AIを活用することによって、授業準備、採点作業や成績処理等に係る事務負担を軽減する。

イ 支援が必要な児童生徒・家庭への対応（「3分類」⑲関係）

- ・ スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等の生徒指導関係の校内会議への参加目標を60%とし、専門的な知見を活用しつつ教職員が連携・協働した支援体制を構築する。
- ・ 教育委員会において、医療・福祉・警察等の関係機関と学校との連携に関する研修を少なくとも年2回は実施することで、学校が組織として関係機関と連携・協働し、適切な役割分担のもと支援を行うことのできる体制を構築する。

（2）学校における措置の推進

学校における以下の措置を推進することで、教育職員が担う業務の適正化を図る。

- ① 各学校の教育課程における年間総授業時数や週当たり授業時数については、年度当初の計画段階で真に必要な時数となるよう設定する。特に、標準授業時数を大幅に上回って（小4以上は年間で1086 単位時間以上）編成されている場合には、指導体制に見合うものとなるよう見直す。
- ② 当初の狙いが形骸化し十分な効果が見込めない活動等の見直し、清掃時間・頻度の見直し、放課後の活動時間の勤務時間内での設定など、日課表の工夫を行う。

(3) 教育職員の健康及び福祉の確保に関する取組

教育職員の健康及び福祉を確保するため、労働安全衛生法等の規定を遵守するとともに、以下の内容に取り組む。

- ① 1箇月時間外在校等時間が80時間を超えた教育職員に医師による面接指導を実施する。
- ② 11時間を目安とする勤務間インターバルの確保に取り組む。
- ③ 50人未満の学校も含め、ストレスチェックの実施率を100%にし、実施後の集団分析の結果等も活用して職場改善の改善を推進する。
- ④ 心身の健康問題についての相談窓口を設置する。
- ⑤ 年次有給休暇についてまとまった日数連続して取得できるよう、各学校に対して取得を促進する。
- ⑥ 学校における定時退校日を月1回以上設定するよう推進し、長期休業等の期間中に3日間の一斉閉校期間の設定を行う。

5. 関連する取組、今後のフォローアップについて

- (1) 取組の着実な実行を図るため、市内各学校の教育職員の在校等時間の状況を把握し、毎年度、定例の教育委員会及び総合教育会議等において報告することとする。
- (2) 学校での児童生徒等の支援に当たる医療・福祉に関する人材の確保に当たり、関係部局・関係機関とともに取り組む。
- (3) 時間外在校等時間にかかる目標の達成状況については、本市で導入している出退勤管理システムで把握し、その他の目標については、本市で導入しているストレスチェックの結果から把握する。
- (4) 教育委員会において、各学校の状況を確認し、本計画の内容に照らして課題が見られるときは、当該学校に聞き取り・指導等を実施する。特に、時間外在校等時間が長時間となっている教育職員がいる学校や、業務の持ち帰りや休憩時間の確保が課題となっている学校に対しては、当該年度中にも速やかに状況が改善されることを目指し、当該学校に対する個別の支援・指導を実施する。
- (5) 各学校における働き方改革の取組が進むよう、様々な機会を捉え各学校へ本計画の周知を行うとともに、管理職向けにマネジメント等に関する研修を充実させるなど、教育委員会からの支援を強化する。各学校においては、校長をはじめとした管理職のリーダーシップのもと、学校運営協議会における協議等も踏まえつつ、本計画に基づき、教職員の働き方改革に向けた取組を実施する。